

恩師の温い証言に

さすがの大谷も泣く！

判決 公求 大死

高久村の野口竹男 切であつた、事件後始め さん一家四人殺し て刑務所で彼とあつた時 大谷は後悔して泣き更生 大谷は後悔して泣き更生 大谷は後悔して泣き更生

判は十五日午後一時から地と温情にみちた証言をすれ 裁判支度で開かれたが証人ばささの悪鬼大谷も聲を 台に立つた大谷の小学校時あげて泣いていた最後に松 代の恩師大平幸男氏(天)は本検事は法律上の許す限り 大谷の成績は常に優等での極刑を求むとして死刑を求 性格は明朗、他人には親刑して同五時閉廷した

パン券で玉うどんも

四月から自由に買えます

縣下で四市が實施

四月一日から平市ではパン券でうどんも、うどん粉も自由に買えます。これは縣下の食糧事情が好轉したので窮屈だった主食面に縣独自の立場から大巾な融通性を持たせ、完全就労をめざす失業対策たもので白河を除いた四市は十四日午後一時から市だけが當分これを實施、平市役所委員室で開き種する、この方法は主食差々懇談した結果十五日から引き渡されるパン券で三十日迄平を中心に内郷、パンがいやならその券を湯本、好間、赤井の三百名持つていけばうどん粉で縣補助事業に就労させるも玉うどんでも自由に買事としたが四月以降の事業える事が出来るもの、價に就ては遅くも二十四、五格はうどんは大めん(一日頃迄には決定される管で食八十八匁以上)細めん(失業者達はようやく完全就(一食八十六匁以上)とも券を見る事になった

ビン酒等盗まる 鹿島村御代酒造業佐原久治 平さん(三)で十二日夜土藏を破られ一升ビン詰十三本 白米二斗五升價格一萬一千 圓を盗まれた

二ユース

(東) (西)

（茨城）高萩町安良川安 村製材工場から昨十五日 正午頃發火たちまち四方に燃えひろがり四棟十四 戸を全焼して午後二時半頃鎮火した、白晝の出来事として一時は非常な騒ぎであつた原因は機械油に引火した作業上の過失損害は一千万圓以上に達する見込み

（岩手）盛岡市紺屋町古物商附部盛人さんは本年一月三十日北海道旭川市の澁粉會社社長櫻井榮次郎(四)という男に金の延板四枚(二百四十匁)と金のらん(袋)に入れた砂金三百五十七匁時價百五十万円を擔保に利子一割を天引して六十三万円を貸したがその後擔保品を調べたところ、いつの間にか鉛と真ちゆうに化けていたのびつくりこの程市署にさきとして届出した

荒物 平市五町目(電六一八番) 雑貨

金融機關は 平信用組合ではこれまで 晝食時の一時間を休んで 居つたが一般預金者の爲 この制を廢し晝食時も執 務する事になつたそうであるが一般大衆の爲には 眞に喜しい大ヒットであ る。各金融機關が行つて いる晝食時一時間のやすみ は戦時中の遺制で之が爲 預金者は大なる不便と迷 惑を感じて居た事は今更 ぜい言を要する迄もない 世は正にサービス時代に 移向しつつある、中商工 業者は勿論社會一般は税 金旋風、購買力の減退、 滞貨の放出等々の爲金詰 りに時間的經濟的に苦難 に陥り血みどろの活動を 續けて居る際金融機關の みが舊慣を墨守する事は 經濟再建上大なる支障を 來す事は火をみるより明 である。他の金融機關も よろしく平信用組合にな らい急速にひるやすみ時 のやすみを廢して貰い度

武子屋商店

（平市Y&S生）

（平市Y&S生）

（平市Y&S生）

（平市Y&S生）

乳製品登錄小賣店

(順不同)

一町目二〇	大平屋藥局	田町三	市川パン	四町目一四	小野屋藥局
その部 国安	田町六八	田町一七	松月堂	小野	丸井屋
阿部康雄	阿部康雄	金子重次	阿部藥局	三町目五	星藥局
才植小路二四	瀨尾善之	阿部吉藏	阿部藥局	二町目二三	西村屋
田町一三	神谷藥局	新川町三二	清水藥局	一町目一八	一龍パン屋
神谷 明	水野藥局	四町目	清水 信	鈴木郁子	鈴木新右衛門
一町目一〇	藤越デパート	關内藥局	關内藥局	銀治町二九	三久
水野清一	上原キヤ	長橋町三四	關内藥局	佐々木智康	白土屋
田町九	松本久米造	關内半平	關内半平	古鍛冶町二三	白土正藏
一町目一六	松	才植小路一六	矢野商店	白銀町一七	小野屋藥局
堀藥局	功	才植小路一六	矢野カネヨ	小野	小野艶子
二町目三一	平藥局	五町目二二	足立貢一	二町目三七	小西食料品
功	足立貢一	高橋 園			